

論文審査の要旨および学識確認結果

報告番号	(甲)乙第 号	氏名	大竹 恒平
論文審査担当者：			
主査	慶應義塾大学教授	博士(工学)	櫻井 彰人
副査	慶應義塾大学教授	博士(工学)	岡田 有策
	慶應義塾大学教授	博士(工学)	大門 樹
	慶應義塾大学教授	工学博士	岡田 謙一
	中央大学教授	博士(工学)	生田目 崇
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>学士(情報学), 修士(情報管理)の大竹恒平君提出の学位請求論文は「ボランティアなコミュニティの活性化を目的とするソーシャルネットワーキングサービスを用いたユーザ支援に関する研究」と題し, 全5章より構成されている。</p> <p>現代社会には様々な形態や大きさのコミュニティが形成され存在している。近年の情報メディア, 特にソーシャルネットワーキングサービス(SNS)の発達により, ネットワーク上の世界においてもコミュニティが形成されるようになった。存立目標が明確なコミュニティだけでなく, 単に共通の興味・関心を基礎として形成しているボランティアなコミュニティも多く存在している。</p> <p>しかしながら, 実世界においてもまたネットワーク上においてもこうしたコミュニティにおいて活動が活発に行われているとは限らない。ましてや, 明確な目標を持たないボランティアなコミュニティにおいても同様である。ここで, コミュニティ構成員同士が活発に意見交換をし, コミュニティの目的を達成する活動が十分に行われている状況を活性化されているということにする。</p> <p>活性化されていない原因は様々にあるが, 本研究においてはコミュニティ構成員間に信頼関係(ここではネットワーク上のコミュニティに倣い友人関係と呼ぶ)の形成が積極的に行われにくい点, 構成員に対する, コミュニティ内での活動への動機付けが適切に行われていないという点に着目した。</p> <p>本研究においては, この2つの課題に対し, 新たな友人関係の形成支援, および動機付け支援する機能を検討・提案し, 実際にSNSを活用してこれらを実装したシステムを作成・適用し, それぞれのコミュニティが活性化されることを確認した。SNSは, ユーザ間のコミュニケーションを促進することを目的としたサービスであり, 提案機能を実装するのに適している。</p> <p>第1章は, 本論文の序論であり, 本研究の背景と目的について述べている。</p> <p>第2章では, 本論文に記された研究の位置づけと意義について述べている。</p> <p>第3章では, ボランティアなコミュニティにおける新たな友人関係の形成支援を目的とした取り組みについて述べている。具体的には, 近年注目を集めているソーシャルゲームのプレイヤーからなるコミュニティを対象とし, 友人候補者の属性や将来行動を示唆する情報を表示することにより, 友人候補者像を明確にし, 友人関係の形成を試みややすくする機能の検討と提案を行っている。実際に作成したシステムを用いた被験者実験の結果を報告し, 効果を確認している。</p> <p>第4章では, ボランティアなコミュニティにおけるコミュニティ活動参加への動機付けに関する提案と実験について述べている。具体的には, ゲームフィクション手法を援用して, 内的動機付けを促し, 活動への積極的参加を支援する機能の検討・提案を行い, オーケストラサークルを対象とした被験者実験の結果を報告し, その効果を確認している。</p> <p>最後に第5章で本論文のまとめと今後の課題および展望について述べている。</p> <p>以上要するに本研究においては, ボランティアなコミュニティを活性化するための重要な施策として2つを取り上げ, 新たな手法を提案・実装し, それが効果的であることを示したものであり, 工学・工業上寄与するところが少なくない。</p> <p>よって, 本論文の著者は博士(工学)の学位を受ける資格があるものと認める。</p>			
学識確認結果	学位請求論文を中心にして関連学術について上記審査会委員で試問を行い, 当該学術に関し広く深い学識を有することを確認した。 また, 語学(英語)についても十分な学力を有することを確認した。		